

UN80イニシアチブ：結束してより良い成果をもたらすために

より簡素で一貫性のある、効率的な国連システムを構築する

なぜ今、UN80イニシアチブが必要か

創設から80年を経た国連システムは、今も世界の平和と開発、人道支援、人権に不可欠な基盤となっています。2024年には、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて80億人を束ね、開発支援によって4億人以上の生活を改善し、緊急事態に陥った1億2,000万人近くに援助を提供しました。しかし、紛争や気候ショックから不平等の拡大、公的機関に対する信頼の低下に至るまで、今日のグローバルな課題はその規模、複雑性、相互関連性においてさらに拡大しています。

同時に、国連システムはより深刻なリソースの逼迫に直面しています。2024年から2026年にかけて、国連システム全体のリソースの基盤は、ほぼ25%に相当する約160億米ドルの縮小が見込まれています。この減少幅は、2024年に提供された人道援助の半分、開発援助の70%、そして規模の大きな国連システム内の組織をいくつか合わせた予算額に相当します。全世界でニーズが高まる一方でリソースが縮小する中、段階的な調整ではもはや間に合わなくなっているのが現状です。

2025年3月に事務総長が立ち上げ、[国連総会決議79/318](#)によって歓迎された「UN80イニシアチブ」は、あらゆるマンデートや資金、決定が、人々と地球により大きなインパクトをもたらすことができるよう、国連システムのあり方を一変させる、組織を挙げた取り組みです。「UN80イニシアチブ」の主眼は、より少ないものに対応することではなく、より良い成果を実現することにあるのです。

「UN80イニシアチブ」とは

「UN80イニシアチブ」は、国連システムを下記のように構築するための変革と現代化への取り組みです。

- **簡素化**：重複や断片化、事務負担の軽減
- **一貫性の強化**：平和と安全、開発、人道支援、人権の領域を横断し、1つのシステムとして動くこと
- **効率化**：システム全体で事務管理部門やデータとテクノロジー促進手段を共有
- **説明責任の強化**：インパクト増大に向け、システム全体の説明責任を強化

- **将来の課題への備え**：デジタル技術を活用し、データ主導型で、21世紀型の課題に適応

UN80はシステム全体を挙げたイニシアチブです。国連事務局は、国連システム全体の資源の約4分の1を占めているものの、成果の大部分は基金や計画、専門機関が生み出しています。よって、このイニシアチブでは、マンデートの作成方法からその履行と見直しのやり方に至るまで、国連システム全体に影響する変革を提言しています。

UN80イニシアチブの進め方

このイニシアチブでは、お互いを補強し合う3つのワークストリーム（作業効率化のための一連の流れ）に基づき、あらゆる取り組みを単一の枠組みに取りまとめめます。

ワークストリーム1：国連事務局の効率化

このワークストリームでは、国連事務局の業務の最適化に焦点を絞ります。[2026年プログラム予算および支援予算](#)の修正見積の一環として、事務総長は下記を含む当初の効率化措置を提言しました。

- 事務基盤の集約
- より低コストの勤務地への機能の移転
- 活動の柱全体で幅広い最適化を実現

こうした措置はワークストリーム3、特に事務サービスと促進手段の共有と集約に向けた組織全体の最適化への取り組みを補完するものです。2025年12月には事実上、すべての提言が[国連総会によって承認](#)されました。

UN80イニシアチブをフォローするには



[LinkedIn](#)でUN80イニシアチブの最新情報をフォローしてください。



www.un.org/un80-initiativeのサイトをご覧ください。

ワークストリーム2：マンドート履行の見直し

マンドートは加盟国の集団的な意思を表します。しかし、長年の間にマンドートのライフサイクルにギャップが生じてきました。マンドートの策定、遂行、見直しの方法が変わってきたということです。[マンドート履行の見直しに関する事務総長報告書（2025年7月）](#)では、下記を含む課題が明らかにされています。

- マンドートとマンドート付与機関をめぐる状況が見通しにくくなっていること
- 会合や報告書の数が増えすぎていること
- 取り組みの重複が見られ、マンドート遂行における役割分担が不明確であること
- 資金調達方法に整合性がなく、資金の用途が厳しく限定されていること
- マンドート見直しのメカニズムと結果に対する説明責任がいずれも未整備であること

「UN80イニシアチブ」では、こうした課題に対処するため、設計の改善や調整の強化、インパクト重視型の見直しを進めています。[ジャマイカとニュージーランドを共同議長国とする国連総会非公式作業部会が提言の取りまとめを行っているところであり、2026年3月には最終的な提言が出される予定です。](#)

ワークストリーム3：構造とプログラムの再編成

ワークストリーム3では、集団的な成果の実現に向けて、国連システム自体の整合性をどのように改善できるかを検討します。2025年9月には、[事務総長が「パラダイムをシフトする：結束して成果をもたらす（Shifting Paradigms: United to Deliver）」を発表し、断片化の軽減、活動の柱それぞれとこれを横断する成果の向上、そして各地域・国レベルでの一貫性改善に向けて可能な構造とプログラムの再編成の概要を示しました。具体的な提言としては、下記が挙げられます。](#)

- **平和と安全**：リーダーシップ構造の効率化、平和構築支援の一本化と、既存の国連システムの専門性を体系的に活用する平和活動のネットワーク強化
- **人道支援**:調整を簡素化し、サプライチェーンやサービスを統合し、データ能力を高め、役割をさらに明確化するための「新・人道コンパクト（New Humanitarian Compact）」の採択

- **持続可能な開発**：国連システム機関の統合、国連国別チームの再構成、地域的構造のリセット、知見共有拠点の新設
- **人権**：国連システムによる取り組みの整合性を改善するための「人権グループ（Human Rights Group）」の設置
- 改革はいずれも、システム全体にまたがる促進手段が支える。これには、グローバルレベルと国別レベルでの事務管理部門サービスの共有、「**データ・コモンズ**」イニシアチブ、「**テクノロジー・アクセラレーター・プラットフォーム（TAP）**」、共同研修・研究、**プール資金が含まれる。**

統一されたアクションプランとガバナンス

すべての対策は単一の「[UN80イニシアチブ・アクションプラン](#)」に取りまとめ、国連システム全体で一貫性を確保します。その実施は下記の指導の下に進められます。

- 事務総長が議長を務め、国連システムのリーダーが月1回、一堂に会する**運営委員会**
- 週1回の状況確認で成果を牽引するシステム全体型**タスクフォース**
- **国連総会**その他のステークホルダーとリーダーとの定期的な対話

進捗状況は[公開型の「UN80イニシアチブ・ダッシュボード」](#)を通じて把握し、透明性と説明責任を確保します。

成功はどのようなものになるか

2026年末までに、下記に向けた前進を遂げることが目標です。

- マンドートの明確化と一貫性の向上
- 政府間プロセスの作業量の削減
- 結果に対する説明責任の強化
- マンドート、資金、遂行体制間の整合性の向上
- デジタルを活用し、21世紀に加盟国を支援できる態勢を整えた国連システム

「UN80イニシアチブ」はとりわけ、未曾有の変化の時代にあっても、人々と地球に最大限のインパクトをもたらす能力と信頼、実効性を備えた国連システムを目指しています。